

# 國學院大學學術情報リポジトリ

「寛文八年戊申武家官禄帳」について：  
寛文・延宝期における武家官位と領知高

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮原, 一郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00002361">https://doi.org/10.57529/00002361</a>

# 「寛文八年戊申武家官禄帳」について

——寛文・延宝期における武家官位と領知高——

宮原 一郎

## はじめに

本稿では國學院大學図書館の所蔵にかかる、日本近世の寛文・延宝期（一六六一～一八一）における大名の官位や領知高を記した武家官位関係史料の翻刻にあたり、その史料解説を行う。史料の書誌的な情報やその内容と時代背景などについて簡単に記す。

今回紹介する史料は、寛文八年（一六六八）「寛文八年戊申武家官禄帳」との題名をもつ武家官位や領知高に関する史料である。「昭和四年十二月廿一日受入」と記され、この時期に國學院大學図書館で購入された史料であることが明らかである。

寛文四年（一六六四）四月五日、時の將軍である徳川家綱より、領知の石高を記した領知判物・朱印状と、領知の国・郡・村を記した領知目録が、ほぼすべての大名に対して一斉に発給された。いわゆる寛文印知である。この「寛文八年戊申武家官禄帳」はその寛文印知から数年後の大名・一部の旗本の官位・領知高などの一覧が記された記録になる。

## 一 「寛文八年戊申武家官禄帳」の作成・伝来について

この「寛文八年戊申武家官禄帳」（以下国大本と表記する）は、先述の通り昭和四年二月二日に國學院大學図書館で購入し受け入れられたものである。しかし、表表紙裏に「前田氏尊経閣図書之印」と前田家尊経閣文庫の蔵書印があることから、当初は前田家に伝来したものと考えられる。その尊経閣の蔵書印の右上には、「七ノ大 七三」と表記された、（一） 豎三・一センチ・横二・一センチの四隅を切った小片紙が貼られている。これは尊経閣に所蔵された際に付けられた目録の番号を記したラベルと想定される。（一）

現在前田尊経閣文庫（以下尊経閣本と表記する）には、「申公家官禄帳」という、公家の領知高や官位などを記した史料がある。まず表題にある「申」について、見返しに「寛文八年戊申武家官禄帳」と記された貼紙があることやその記載内容から、寛文八年のものと考えられる。尊経閣本には国大本と同様に、蔵書印の右上に「七ノ大 七七」と表記された豎三・一センチ・横二・二センチの四隅を切った小片紙がある。この紙の大きさや形状、表記のされ方は国大本とほぼ同じであった。以上の点から国大本は、前田家伝来のものがいつのころから流出し、その後國學院大學図書館の所蔵となったこと。次に、もともとは武家と公家両方の官禄帳が対をなして存在していたことが明らかになった。

同様な武家官位に関連する史料として、寛文二年（一六六二）東京大学史料編纂所蔵の「公武両家官位分限」（以下東大本と表記する）という、公家・武家双方の官位と領知高を記したものが<sup>2)</sup>ある。東大本は公家・武家あわせて一冊あり、前田家では分冊して伝来されていたが、作成の経緯は不明である。今後前田家の史料を用いることで詳細を明らかにできると思われるが、寛文四年の印知（公家は寛文五年）の情報を、前田家にとって必要なものとして集積した

点はうかがえる。

## 二 「寛文八年戊申武家官禄帳」の書誌について

国大本の記載内容は、尾張家を筆頭に御三家などからいわゆる国持大名と官位順に並び、大名・旗本の一部が記されており、この内容は東大本とほぼ同じである。またその内容は、領知高・領知のある国・本国・生国・官位・居所・姓名・諱・年令などが記され、その点も東大本と酷似している。

しかし、国大本は家ごとに高や官位などの項目を細かい楮紙に記し、それを本紙（鳥の子紙）を台紙にして貼り付ける形式をもつ点が大きな特長である。詳細は後述するが、紙を貼り替えることで、常に最新の情報を加除することが可能となる。そのため寛文八年以降隠居や新たに相続した大名家など、その後の情報なども新たに紙を張り付けて加除されている。また付加しやすくするため、時折空白が存在している点も特色の一つであろう。東大本とほぼ同じ書誌的特長を持つとされる、福井県立図書館松平文庫本（以下松平本と表記する）を確認した結果、松平本は斐紙系の薄い紙に直接記す形式であり、国大本とは異なる。

また国立公文書館内閣文庫には「寛文八戊申 武家官禄記 全」（請求番号一五二一〇一〇六・以下内閣本）との表題をもつ史料が存在する。内閣本は楮紙に直接記載し、一頁に五人分を表記する形式である。書写した年号の記載はなく、またあくまでも印象であるが、その字体は近世前期のものとは見えない。同じ官位をもつ大名の記載順は異なり、大名の領知高の記載も時として詳細である。例えば松平大隈守家（薩摩国鹿児島）は、国大本「六拾万五千八百石」とあるのに対して、内閣本では更に「六拾石」が加えられており、国大本とは異なる別系統の写本だと考えられる。

このような国大本と同様な加除式の形式をもつ史料として、京都大学附属図書館所蔵谷村文庫の「行隆公御時代 武家官禄帳」(谷村文庫五―六五・以下京大本)がある。<sup>3)</sup>これは岸和田藩の旧蔵史料で、表紙には「岸藩文庫」の蔵書印をもつ。「行隆公」は岸和田藩藩主岡部内膳正行隆のことで、寛文元年から貞享二年(一六六一―八六)まで藩主を務めた。ただ京大本に年号の記載はなく、それぞれの大名の記載内容から、国大本と比べ少し後年の延宝四年から天和二年(一六七六―八二)までの情報が記されていた。

### 三 「寛文八年戊申武家官禄帳」の特色について

では国大本の大名・旗本家の記載順について述べておこう。正三位の尾張中納言を筆頭に、紀伊中納言・左馬頭・右馬頭・水戸宰相と続き、従三位↓正四位下↓従四位下(少将・侍従)となる。その後「是ヨリ従五位下諸大夫」ではぼ領知高の順番で大名が続く。次に「是ヨリ款冬間之衆」として石川若狭守総良(伊勢国神戸・二万石)を筆頭に、嫡子・長病のものが記載され、「役料貳千俵充」として御留守居・大番頭、「役料千俵充」として書院番頭・御小姓組番頭が続く。次に「是ヨリ中奥」として、五千石・秋田淡路守を筆頭に、伏見町奉行・京都町奉行・禁中方・女院様方・本院御方・新院御方・大坂町奉行・堺町奉行・奈良町奉行・山田町奉行・久能御役人・日光山役人・火消役・御使役と書かれる。「是ヨリ寄合」として八千石本多対馬守忠義将を筆頭に寄合席の旗本が記載され、「弘文院学士」の林春斎、法印・法源があつて、最後に「尾張殿家司」として、附家老の成瀬隼人正を筆頭に、御三家・左馬頭・右馬頭の家臣と続く。次に官位ごとに武家の数があり、大目付・町奉行・御作事奉行、最後に「是ヨリ御小姓衆」として朽木・三枝が記されて終わる。

内閣本もほぼ同じような順番である。しかし、国大本で最後に記された大目付以下の部分が御小姓組番頭の次にくると、国大本で見られた官位ごとの数の集計が見られなかった程度の差異はあった。のちの殿席などとは異なる近世前期における大名家の格付けについては今後更なる検討が必要であろう。

次に国大本の内容について指摘しておく。先述のように加除式である点が国大本の大きな特長であるが、いったい寛文八年（一六六八）から何年までの情報を加除したのであろうか。結論を先に述べると、延宝元年（一六七三）の五月ころまでの情報が加除されたようである。

例えば国大本には奏者番の記載があるが、延宝元年六月に就任する太田撰津守資次の記載がない。同様に延宝元年六月に死去する稲葉能登守信通（豊後国臼杵・五万石）も記載がある。一方延宝元年五月松平岩千代（松平直丘）が松平出羽守綱隆（出雲国松江・一八万六千石）から一万石の分知をうけるが、国大本にはこの情報が記載されている。しかし、延宝二年に家督を相続する京極土肥之助（但馬国豊岡・三万三千石）の記載が加えられていたり、寛文十年（一六七〇）に死去する隠居の織田左衛門入道（長政）の記載がないなど、いくつか加除の精度にばらつきがある点は否めない。

いくつか差違はあるものの、寛文八年から延宝元年の途中まで、新たな異動がある場合に加除を繰り返したことは何を意味するのだろうか。一つはこの「武家官禄帳」がまさに同時代の現用文書として使われたためだと考えられる。例えばある時期のもの（ここでは寛文八年）を後年に書写するならば、加除する形式をわざわざ取ることはありえない。であるならば、内閣本は隙間なく頁ごとに記載する人数が決まっているところから、むしろ後年の写しと考えられるであろう。つまり、加賀前田家にとってこの武家官位や領地高の情報は、加除して更新せねばならないほど必要なものであったことが明白になる。

ただこのような情報が何故必要であったのか。作成経緯不明の寛文二年の東大本とともに、この点を明らかにすることが、近世社会にとつての武家官位ひいては武家社会の特質を明らかにする一つの手がかりを提供することになると思われる。なぜ寛文八年にこのような史料が作成されたのかの理由も含めて、今後の課題であろう。

#### 注

- (1) 「武家官禄帳」は國學院大學図書館のHPで公開されている。あわせて確認されたい。
- (2) 『近世武家官位の研究』所収「公家両家官位分限」の史料翻刻と改題(杉森玲子氏執筆)(一九九九年、続群書類従完成会)。
- (3) 京都大学附属図書館のホームページから谷村文庫本の一部の画像が公開されている。以下のURLを参照されたい(<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/0073/image/23/0073s197.html>)。

#### 凡例

- 一 本稿は、國學院大學図書館所蔵「寛文八年戊申武家官禄帳」(寛文八年・一六六八)を翻刻するものである。図書館では貴重書図書の史料で、請求番号は貴一Ⅱ/19である。
- 一 ①の原本の体裁は、縦三六・一センチ・横二五・五センチ。墨付四一丁。
- 一 翻刻の際には、判読の便を考慮して常用漢字を使用した。
- 一 明らかな誤字は右傍に( )で正しい字を示し、推測できるものは(―カ)とした。

〔表紙裏〕

〔貼紙〕  
「寛文八年戊申武家官禄帳」

「申 武家官禄帳」

六拾壹万九千五百石

尾張  
美濃内

正三位

居城名古屋

尾張中納言殿

光義

四十四

五拾五万五千石

紀伊  
伊勢内

正三位

居城和歌山

紀伊中納言殿

光貞

四十三

貳拾五万石

甲州  
武州  
駿州内  
江州  
信州

宰相  
中将  
正三位兼

居城甲府

左馬頭殿

綱重

二十四

貳拾五万石

上州  
野州  
甲州内  
濃州  
江州

宰相  
中将  
正三位兼

居城館林

右馬頭殿

綱吉

二十二

式拾八万石

常陸内

從三位

居城水戸

水戸宰相殿

光国  
四十二

從二位中將

尾張右兵衛督殿

綱義  
十七

徳川常陸介殿

綱教  
子二十

正四位下少將

准三位

徳川采女正殿

綱条  
十三

式拾六万石余

越後内

本国三河  
生国越前

從三位越後中將

居城高田

松平越後守

光長  
五十四

百式万五千廿石余

加賀  
能登  
越中

本国尾張  
生国武蔵

正四位下加賀中將

居城金沢

松平加賀守

綱利  
廿六

五拾式万五千式百石余

内 五万石  
式万五千石

中務大輔  
兵部大輔  
別ル

越前

本国三河  
生国越前

從四位下越前少將

居城福井

松平越前守

光通  
三十三

六拾万五千八百石余

外拾式万三千七百石琉球国

薩摩  
大隅

本国薩摩  
生国同

從四位下薩摩少將

居城鹿兒嶋

松平大隅守

光久  
五十三

六拾式万五拾石余

内三万石田村隱岐守別ル

奥州  
常州内  
江州

本国陸奥  
生国武蔵

從四位下仙台少將

居城仙台

松平陸奥守

綱基  
十

三拾貳万石

因幡 伯耆 本国近江 生国武蔵

従四位下因幡少将

居城鳥取

松平相模守

光伸 三十九

三拾万石

近江 武蔵 本国遠江 生国武蔵

従四位下彦根少将

居城彦根

井伊掃部頭

直澄 四十四

拾三万石

上野 近江 本国三河 生国武蔵

従四位下前橋少将

居城前橋

酒井雅楽頭

忠清 四十五

五千俵

本国山城 生国同

従四位下少将

松平左兵衛督

綱平 卅四

三万石

伊予内 本国 (マ) 生国 (マ)

従四位下少将

居所西條

松平左京大夫

頼純 廿八

従四位下少将

松平摂津守

義行 十

従四位下少将

松平出雲守

義則 十五

従四位下少将

隠居

松平新太郎

光政 六十

從四位下少將

隱居

松平安芸守

光晟  
五十二

從四位下少將

隱居

藤堂大學頭

高次  
六十八

從四位下少將

隱居

松平讚岐入道源英

賴重  
四十七

貳千五百五拾石余

遠江内

本國遠江  
生國武藏

從四位下少將

大沢兵部大輔

基將  
四十九

三拾六万九千四百石余

周防  
長門

本國安芸  
生國武藏

從四位下長門侍從

居城萩

松平大膳大夫

綱広  
三十

五拾四万石

内三万石丹後守二別ル

肥後  
豊後内

本國山城  
生國武藏

從四位下肥後侍從

居城熊本

細川越中守

綱利  
廿六

四拾三万三千百石

筑前

本國尾張  
生國筑前

從四位下筑前侍從

居城福岡

松平右衛門佐

光之  
四十二

三拾五万七千三拾石余

肥前内

本國肥前  
生國武藏

從四位下肥前侍從

居城佐賀

松平丹後守

光茂  
卅七

拾八万六千五百石

美作

本國美濃  
生國美作

從四位下美作侍從

居城津山

森内記

長繼  
五十九

七万石伊予内	拾万七百石余	三拾七万六千五百石	三拾壹万五千貳百石 内壹万五千石弟主税二別ル	貳拾万五千八百石	貳拾五万六千九百石余	貳拾万貳千六百石 内三万石山内右近大夫別、此内三千石大膳	三拾貳万三千石 内 五万石 佐渡守 別ル 二千石 庄次郎	拾八万六千石 隠州壹万八千八百石御預
	奥州内	備後内	安芸 備中内	出羽内	淡路	阿波	伊賀	雲州
本国陸奥 生国武蔵	本国尾張 生国武蔵	本国尾張 生国武蔵	本国尾張 生国武蔵	本国常陸 生国 秋田	本国尾張 生国武蔵	本国尾張 生国	本国近江 生国	本国三河 生国武蔵
從四位下宇和嶋侍從	從四位下二本松侍從	從四位下備前侍從	從四位下秋田侍從	從四位下阿波侍從	從四位下土佐侍從	從四位下伊賀侍從	從四位下出雲侍從	
居城宇和嶋	居城二本松	居城岡山	居城秋田	居城徳嶋	居城高知	居城津	居城松江	
伊達遠江守	丹羽左京大夫	松平伊予守	佐竹右京大夫	松平阿波守	松平土佐守	藤堂和泉守	松平出羽守	
宗利	光重	綱政	義処	綱通	豊昌	高久	綱隆	
三十五	四十八	三十一	三十六	十三	二十八	三十一	卅八	

壹万千八百卅七石

对馬  
肥前内

本国对馬  
生国武蔵  
從四位下对馬侍從

居城府中

宗对馬守

義真  
三十

貳万八千貳百三拾石余

大和内

本国尾張  
生国加賀  
從四位下宇多侍從

居城宇多

織田山城守

長頼  
四十九

貳拾三万石

奥州内

本国  
生国  
從四位下会津侍從

居城会津

保科筑前守

正経  
二十三

拾貳万石

讚岐内

本国  
生国  
從四位下高松侍從

居城高松

松平讚岐守

頼常  
十七

拾五万石

播磨内

本国三河  
生国越前  
從四位下姫路侍從

居城姫路

松平大和守

直矩  
二十七

拾万石

越中内

本国尾張  
生国加賀  
從四位下富山侍從

居城富山

松平淡路守

利次  
五十二

五万石

越前内

本国三河  
生国武蔵  
從四位下大野侍從

居城大野

松平但馬守

直富  
六十五

拾五万石

下野内

本国三河  
生国大和  
從四位下宇都宮侍從

居城宇都宮

松平下総守

清良  
三十八

九万五千石

野州  
相州内  
駿州内  
常州内

本国美濃  
生国武蔵  
從四位下小田原侍從

居城小田原

稻葉美濃守

正則  
四十六

五万石

下総内

本国三河  
生国武蔵

従四位下世喜宿侍従

居城世喜宿

久世大和守

広之  
六十

四万五千石

常陸

本国甲斐  
生国武蔵

従四位下土浦侍従

居城土浦

土屋但馬守

数直  
六十一

従四位下侍従

相模守嫡子

松平伯耆守

綱清  
二十二

貳万石

常陸内

従四位下侍従

水戸頼房卿三男

松平刑部大輔

頼元  
四十

貳万石

常陸内

従四位下侍従

水戸頼房卿四男

松平播磨守

頼隆  
三十九

従四位下侍従

大隅守嫡孫

松平修理大夫

綱貴  
十九

従四位下侍従

掃部頭嫡子

井伊玄蕃頭

直置  
子二十七

貳万石

従四位下侍従

雅楽頭嫡子

酒井河内守

忠明  
二十二

四万石

伊予内

本国尾張  
生国遠江

従四位下今治侍従

居城今治

松平美作守

定房  
六十八

三万五千石

丹後内

本国遠江  
生国武蔵

從四位下田辺侍從

居城田辺

牧野佐渡守

親成  
六十二

三万石

所司代

河内之内

本国越後  
生国武蔵

從侍從

居所渚

永井伊賀守

尚庸  
三十八

四千石

三河内  
上野

本国三河  
生国武蔵

從四位上侍從

吉良上野介

義央  
二十六

千石

武州内

本国山城  
生国同

從四位下侍從

兵部大輔養子

戸田土佐守

氏豊  
四十

從四位下侍從

大沢右京大夫

基清  
子二十七

從四位下侍從

隱居

立花飛驒入道江雪

忠貞  
五十七

從四位下侍從

隱居

織田出雲入道一庵

高長

從四位下侍從

隱居

阿部豊後

忠秋  
六十七

三千百石

從五位下侍從

島山下總守

義里  
五十二

千五百石

従五位下侍従

上杉伊勢守

長之  
廿七

千石

従五位下侍従

織田主計頭

貞置

千石

従五位下侍従

由良信濃守

親繁  
四十三

貳拾万石

筑後内

本国播磨  
生国筑後

従四位下諸大夫

居城久留米  
有馬中務大輔

頼元  
十五

拾万九千六百四拾石余

筑後内

本国筑後  
生国

従四位下諸大夫

居城柳川  
立花左近将監

直茂  
廿四

三万七千三百五拾石

長門内

本国安芸  
生国武蔵

従四位下諸大夫

居所長府  
毛利甲斐守

綱元  
十九

従四位下諸大夫

内記嫡子  
森美作守

忠継  
卅二

従四位下諸大夫

丹後守嫡子  
松平信濃守

綱茂  
十七

従四位下諸大夫

右衛門佐嫡子  
松平筑前守

綱之  
十四

五万石  
越前守高ノ内

越前内

本国三河  
生国武蔵

從四位下諸大夫

居所松岡

松平中務大輔

昌勝  
卅三

七万石

加賀内

本国尾張  
生国加賀

從四位下諸大夫

居城大聖寺

松平飛驒守

利明  
卅二

貳万石

上野内

本国尾張  
生国大和

從四位下諸大夫

居所小幡

織田内記

信久  
廿六

貳万五千石

越前守高ノ内

越前内

本国三河  
生国越前

從四位下諸大夫

居所吉江

松平兵部大輔

昌親  
三十

拾五万石

伊予内

本国三河  
生国武蔵

從四位下諸大夫

居城松山

松平隱岐守

定長  
廿九

拾四万七拾石余

出羽内

本国三河  
生国武蔵

從四位下諸大夫

居城鶴岡

酒井左衛門尉

忠治  
廿五

拾五万石

豊前内

本国信濃  
生国(マ)

從四位下諸大夫

居城小倉

小笠原遠江守

長真  
廿三

拾貳万三千五百石余

若狭  
越前内  
下野

本国三河  
生国武蔵

從四位下諸大夫

居城小浜

酒井修理大夫

忠直  
三十八

從四位下諸大夫

淡路守嫡子

松平大蔵大輔

利隆  
二十

五万石

武州 遠州 相州 撰州内 河州 泉州

本国三河 生国武蔵

大坂御城代

従四位下諸大夫

山城守嫡子

織田出雲守

長通  
子二十六

隠居

戸田采女入道一閑

氏信

六十九

隠居

内藤帯刀

忠興

七十七

隠居

松平若狭入道別峯

康信

六十九

居城米沢

上杉喜平次

景

六

居城村上

榊原熊之助

政倫

四

拾五万石

奥州内

本国越後 生国武蔵

拾五万石

越後内

本国三河 生国武蔵

是ヨリ従五位下諸大夫

四万石

信濃内

本国三河  
生国武蔵

居城飯山

松平遠江守

忠親  
三十五

六万石

下総内

本国三河  
生国美濃

居城佐倉

松平和泉守

乗久  
三十六

拾貳万石

大和内

本国三河  
生国播磨

居城郡山

本多中務大輔

政長  
三十六

拾壹万石余

伊勢内

本国三河  
生国武蔵

居城桑名

松平越中守

定重  
廿五

拾万石

信濃内

本国信濃  
生国武蔵

居城川中嶋

真田伊豆守

信房  
十三

拾万千拾石余

備後内  
相模

本国三河  
生国備後

居城福山

水野民部

勝慶  
八

拾万石

美濃内

本国三河  
生国武蔵

居城大垣

戸田左門

氏西  
四十一

拾万石

奥州内

本国三河  
生国播磨

居城白川

本多下野守

忠平  
卅七

九万石

出羽内

本国三河  
生国  
(ママ)

居城山形

奥平小次郎

子二五歳

八万石	奥州内	本国陸奥 生国同	居城盛岡	南部大膳亮	重信	五十一
八万石	豊前内	本国信濃 生国下野	居城中津	小笠原内匠頭	長勝	廿四
八万三千百式拾九石余	肥前内	本国三河 生国武蔵	居城唐津	大久保出羽守	教転	三十八
七万四百四拾石余	豊後内	本国摂津 生国 (ママ)	居城竹田	中川佐渡守	久恒	廿八
七万四千廿三石余	越後内	本国上野 生国武蔵	居城長岡	牧野飛驒守	忠成	卅四
七万石	江州内	本国三河 生国下総	居城膳所	本多兵部少輔	康将	四十七
七万石	信州内	本国三河 生国信濃	居城松本	水野隼人正	忠直	十七
七万石	奥州内	本国三河 生国武蔵	居城岩城	内藤左京亮	義概	五十
六万五千石	播州内	本国三河 生国丹波	居城明石	松平日向守	信之	四十

六万八千弍百石

羽州内

本國出羽  
生國同

居城新庄

戸沢能登守

忠義

廿九

六万千七百石

老岐  
肥前内

本國肥前  
生國武蔵

居城平戸

松浦肥前守

鎮信

四十八

六万千五百拾石余

内三千石別

讚州  
播州内

本國近江  
生國讚岐

居城巴龜

京極備中守

高豊

十四

六万石

奥州内

本國下総  
生國山城

居城中村

相馬長門守

勝胤

三十二

六万六千石

肥前内

本國三河  
生國同

居城嶋原

松平主殿頭

忠房

五十

六万石

美濃内

本國三河  
生國

居城加納

松平丹波守

光永

二十六

六万石

内老万石織部正江別ル

伊予内

本國美濃  
生國伯耆

居城大洲

加藤出羽守

泰真

五十八

六万石

大和内

本國三河  
生國

居所郡山

本多出雲守

政利

二十八

五万八千八拾石余

信州内

本國美濃  
生國

居城植田

仙石越前守

政俊

政俊

五万二千石	和泉内	本国駿河 生国武蔵	居城岸和田	岡部内膳正	行隆	五十二
五万三千五百卅石余 内三千五百石弟内記、外新田三千石長三郎別 播磨内	播磨内	本国尾張 生国武蔵	居城赤穂	浅野采女正	長友	二十七
五万三千石	播州内	本国近江 生国武蔵	居城竜野	脇坂中務少輔	安吉	三十六
五万九拾石	奥州内	本国三河 生国伊豆	居城棚倉	内藤豊前守	信良	四十四
五万千八拾六石余	日向内	本国日向 生国武蔵	居城小肥	伊東出雲守	祐実	二十五
五万四百四拾石余	石州内	本国三河 生国丹波	居城浜田	松平周防守	康次	五十四
五万石 外二三千石御預	日向内	本国肥前 生国同	居城県	有馬左衛門佐	康純	五十六
五万六拾五石余	豊後内	本国伊予 生国豊後	居城臼杵	稲葉能登守	信通	六十一
五万石	越後内	本国若狭 生国越後	居城新発田	溝口信濃守	宣広	三十六

五万拾石余

遠州内

本国三河  
生国武蔵

居城横須賀

本多越前守

利長

卅四

五万三千石

奥州内

本国出羽  
生国常陸

居城三春

秋田安房守

盛季

四十九

五万石

丹波内

本国三河  
生国

居城篠山

松平又七郎

信利

子二十五

五万石

伊勢内

本国近江  
生国伊勢

居所久居

藤堂佐渡守

高通

二十五

五万石

備後内

本国尾張  
生国山城

居所三好

浅野因幡守

長治

五十五

五万石

筑前内

本国尾張  
生国

居城秋月

黒田千之助

長興

十

四万五千石  
外五千石別ル

但馬内

本国尾張  
生国

居城出石

小出修理亮

吉重

六十一

四万八千石

備中内

本国常陸  
生国

居城松山

水谷左京亮

勝宗

四十六

四万七千石

奥州内

本国陸奥  
生国武蔵

居城弘崎

津輕越中守

信政

廿四

四万三千三百拾九石余	越前内	本国三河 生国武蔵	居城丸岡	本多飛驒守	重昭 三十五
四万三千石	石見内	本国出羽 生国武蔵	居城津和野	龜井能登守	茲政 五十二
四万石	筑前内	生国 (ママ) 生国 (ママ)	居所東連寺	黒田宮内	之 十
三万八千七百六拾石余	飛驒	本国美濃 生国飛驒	居城高山	森万助	可 子二四歳
三万八千石	丹波内	本国 (ママ) 生国遠江	居城龜山	松平伊賀守	忠昭 二十四
三万五千石	遠江内	本国遠江 (ママ) 生国	居城掛川	井伊伯耆守	直武 十九
三万六千石	撰津内 丹波	本国志摩 生国因幡	居所三田	九鬼和泉守	隆律
三万五千石	周防内	本国安芸 生国山城	居所徳山	毛利日向守	就隆 六十六
三万三千石 内三千石兵部へ別ル	但馬内	本国近江 (ママ) 生国	居所豊岡	京極土肥之	助高 十

三万貳千石

豊後内

本國三河  
生國出羽

居城木付

松平市正

直次  
四十四

三万貳百石

信濃内

本國三河  
生國武蔵

居城高遠

鳥居兵部少輔

忠常  
二十三

三万八拾七石余

信州内

本國信濃  
生國武蔵

居城高嶋

諏訪因幡守

忠晴  
三十

三万七拾七石余

日向内

本國大隅  
生國日向

居所佐土原

嶋津飛驒守

久英  
十九

三万石

播磨内

本國撰津  
生國武蔵

居所山崎

池田豊前守

恒行  
十八

三万石

上野内

本國信濃  
生國武蔵

居城沼田

真田伊賀守

信澄  
卅四

三万石

日向内

本國筑前  
生國武蔵

居城財部

秋月佐渡守

種信  
三十八

三万石

伊予内

本國陸奥  
生國武蔵

居所吉田

伊達宮内少輔

宗能  
卅二

三万石

出雲内

本國三河  
生國  
(マヤ)

居所戸田

松平上野介

近栄  
三十七

三万石	越後内	本国尾張 生国武蔵	居所村松	堀丹波守	直吉	三十二
三万石 此内三千石大膳	土佐内	本国尾張 生国 (マ)	居所幡多	山内右近大夫	豊定	三十二
三万石	陸奥内	本国陸奥 生国同	居所岩沼	田村隠岐守	宗良	三十二
三万石内 三千石十郎右衛門 二千石百助	丹波内	本国尾張 生国 (マ)	居所園部	小出信濃守	吉久	五十一
貳万七千九百七拾石余	肥前内	本国肥前 生国武蔵	居城大村	大村因幡守	純長	卅三
貳万七千三百拾七石余	常陸内	本国近江 生国武蔵	居所麻生	新庄隠岐守	直時	四十二
貳万五千石	備前内	本国近江 生国備前		池田信濃守	政能	
貳万五千石	豊後内	本国尾張 生国武蔵	居城日出	木下右衛門大夫	俊長	廿一
貳万五千石	出羽内	本国美濃 生国下総	居城上山	土岐山城守	頼行	六十一

貳万五千石

備中内

本国尾張  
生国武蔵

居所足守

木下淡路守

利貞  
四十二

貳万四千石

美濃内

本国美濃  
生国武蔵

居城八幡

遠藤備前守

常友  
四十三

貳万貳千七百七拾石余

美濃内

本国信濃  
生国美濃

居所高須

小笠原土佐守

貞信  
三十八

貳万貳千五百石  
内千五百石すて助

備中内

本国備前  
生国備中

居所庭瀬

戸川土佐守

安宣  
二十一

貳万五千石  
内五千石主水

駿河内

本国三河  
生国武蔵

居城田中

西尾隱岐守

忠成  
十六

貳万貳千百六拾五石余

肥後内

本国遠江  
生国  
(ママ)

居城求麻

相良遠江守

長武  
廿八

貳万貳千石

大和内

本国三河  
生国武蔵

居城高取

植村右衛門佐

家貞  
五十一

貳万四百廿壹石余

出羽内

本国出羽  
生国常陸

居城本庄

六郷伊賀守

政勝  
六十

貳万石

羽州内

本国陸奥  
生国出羽

居所龜田

岩城伊予守

重隆  
四十

貳万石	貳万石	貳万貳千貳百石	貳万石	貳万石	貳万石	貳万石	貳万壹石余	貳万石
奥州内	奥州 能登内	豊後内	奥州内	出羽内	三河内	豊後内	近江内	信濃内
本国陸奥 生国同	本国山城 生国武蔵	本国三河 生国武蔵	本国三河 生国武蔵	本国三河 生国出羽	本国三河 生国 (ママ)	本国豊後 生国 (ママ)	本国伊勢 生国 (ママ)	本国越後 生国山城
居所九戸	居所窪田	居城府内	居所岩城	居所左沢	居城荊谷	居城佐伯	居所大溝	居城飯田
南部武大夫	土方河内守	松平左近将監	内藤右近大夫	酒井大学頭	稻垣信濃守	毛利主膳	分部隼人正	堀美作守
直政 九	雄次 五十八	成昭 五十二	正直 廿四	忠朝 三十	重祥 卅四	高 七	信政 十七	親昌 六十三

壹万五千石  
松平伊予守高之内

壹万九千五百石

壹万九千拾石余

壹万八千石

壹万七千四石余

壹万六千式百六拾石余

壹万三千式拾石余

壹万式千四百拾六石余

壹万石

備前内

丹波内

美濃内

下野内

近江内

常陸内  
下野内

大和内

下野内

大和内

本国近江  
生国備前

本国志摩  
生国同

本国尾張  
生国武蔵

本国下野  
生国武蔵

本国美濃  
生国武蔵

本国山城  
生国武蔵

本国尾張  
生国駿河

本国下野  
生国武蔵

本国三河  
生国武蔵

池田主税

居所綾部

九鬼式部少輔

隆季  
六十一

居城岩村

丹羽式部少輔

氏純  
三十一

居所黒羽

大関信濃守

増栄  
三十

居所仁正寺

市橋下総守

政信  
四十六

居所茂木

細川豊前守

興隆  
三十七

居所新庄

桑山修理亮

一玄  
五十八

居城太田原

太田原山城守

高濑  
卅二

居所郡山

本多肥前守

政貞  
二十二

壹万石	壹万石	壹万石	壹万石	壹万石 出羽守高ノ内	壹万貳千五百卅石余	壹万拾九石余	壹万石	壹万石余
安房内	播州内	大和内	和泉内	伊予内	肥前内	摂津内	筑後内	上野内
本国三河 生国下総	本国近江 生国 <small>(マヤ)</small>	本国尾張 生国武蔵	本国尾張 生国武蔵	本国美濃 生国伯耆	本国肥前 生国同	本国美濃 生国播磨	本国筑後 生国武蔵	本国尾張 生国武蔵
居所東条	居所林田	居所戒重	居所陶器	居所新谷	居所深江	居所麻田	居所今山	居所七日市
西郷若狭守	建部内匠頭	織田主殿	小出大隅守	加藤織部正	五嶋淡路守	青木甲斐守	立花和泉守	前田右近大夫
延員 五十五	政吉 廿四	長	有重 三十三	直泰 五十四	盛勝 廿三	重正	種長 四十五	利豊 四十四

壹万石

石見内

本国三河  
生国摂津

居所阿野

加藤内蔵助

明友  
四十八

壹万石

河内内  
下野

本国相模  
生国武蔵

居所池尻

北條伊勢守

氏治  
三十

壹万三百四拾三石

備中  
美濃内  
河内内  
摂津

本国尾張  
生国武蔵

居所河辺

伊東信濃守

長貞  
廿六

壹万石

伊予内

本国伊予  
生国武蔵

居所小松

一柳山城守

直治  
廿七

壹万石

伊勢内

本国尾張  
生国美濃

居城長嶋

松平佐渡守

良尚  
四十六

壹万石

大和内

本国尾張  
生国武蔵

居所柳本

織田信濃守

長盛  
三十

壹万石

播磨内

本国伊予  
生国武蔵

居所小野

一柳対馬守

直好  
二十

壹万五百廿石余

美濃内

本国美濃  
生国同

居所苗木

遠山信濃守

友貞  
廿八



壹万五拾三石余

信州内

本国美濃  
生国信濃

居所須坂

堀長門守

職矩  
十二

壹万八拾貳石余

丹波内

本国美濃  
生国山城

居所山家

谷出羽守

衛広  
廿五

壹万石

越後内

本国上野  
生国越後

居所与板

牧野遠江守

康道  
二十

壹万石

豊前内

本国  
生国  
(ママ)

小笠原備後守

長貞

壹万石

出雲内

本国二河  
生国  
(ママ)

隐居

松平岩千代

本多能登入道鈍齋

忠義  
六十八

隐居

土井遠江

利隆

隐居

中川山城入道入山

久清  
五十四

隐居

仙石越前入道道休

政俊  
五十二

隠居

井上河内

正利

六十三

隠居

溝口出雲

宣直

六十三

隠居

太田備中入道道頭

資宗

六十九

隠居

京極伊勢

高盛

隠居

織田左衛門入道卜斎

長沼

隠居

安部撰津入道性都

信盛

隠居

建部丹波入道自得

政長

六十五

隠居

鍋島和泉

直繼

四十七

隠居

堀式部入道宗三

直景

六十五

拾万石

下野内

本国三河  
生国武蔵

隠居

青木甲斐入道端山

重兼

六十二

隠居

北條久太郎

氏宗

五十

居城古河

土井大炊頭

利重

二十二

居城岩付

阿部对馬守

正盛

九万九千石

武蔵内

本国三河  
生国(ママ)

居城忍

阿部播磨守

正能

四十

九万石

武蔵内

本国三河  
生国武蔵

居城宮津

永井右近大夫

尚征

五十六

七万二千六百石余

丹後内

本国三河  
生国武蔵

居城川越

松平伊豆守

晴綱

七万石

外五千石弟万千代別ル

武蔵内  
常陸

本国三河  
生国(ママ)

居城淀

石川主殿頭

昌勝

三十五

六万石

山城内

本国河内  
生国武蔵

居城烏山

板倉石見守

重通

廿九

五万石

下野 三河  
山城 摂津内  
上総 下総

本国三河  
生国武蔵

五万石	六万石	貳万石	貳万五千石	四万八千石	五万石	五万石
常陸内	上野内 近江内	上州内	下野内 下総内	摂州内	伊勢内	三河内
生国武蔵 本国三河	生国武蔵 本国三河	生国武蔵 本国尾張	生国武蔵 本国三河	生国武蔵 本国三河	生国武蔵 本国三河	生国武蔵 本国三河
奏者番	奏者番	御腰物方 御鷹方 支配	御数寄屋方 御厩方 支配			
居城笠間	居城高崎	居所安中	居所足利	但馬守嫡子 土屋相模守	居城龜山 板倉隱岐守	居城岡崎 水野監物
井上相模守	安藤対馬守	堀田備中守	土井能登守	美濃守嫡子 稲葉丹後守	青山大膳亮	
正任 三十九	重貞 廿九	正俊 三十五	利房 三十八	政直 廿八	幸利 五十三	忠善 五十七
				義雅 廿九	重常 二十六	

三万石

信州内

本国三河  
生国武蔵

奏者番

居城小諸

酒井日向守

忠能  
四十一

三万貳千石

丹波内

本国近江  
生国武蔵

奏者番

居城福地山

朽木伊予守

季綱  
二十五

貳万三千石

三河内

本国三河  
生国武蔵

奏者番

居城西尾

土井兵庫頭

利長  
卅八

貳万石

相模  
武蔵内  
三河

本国三河  
生国武蔵

奏者番

居所玉繩

松平備前守

隆綱  
四十五

壹万五千石

安房  
下総内  
上総  
大和

本国三河  
生国武蔵

奏者番

居所佐貫

松平山城守

重治  
二十七

四万石

三河内

本国信濃  
生国同

奏者番  
寺社奉行毛

居城吉田

小笠原山城守

長頼  
四十五

貳万千石

本国三河  
生国同

奏者番  
寺社奉行毛

戸田伊賀守

忠晴  
三十七

壹万石

奥州内

本国三河  
生国武蔵

奏者番  
寺社奉行

本多長門守忠利

三十四

三万六千石	三万五千貳百卅石余	三万貳千卅七石余	貳万石	貳万石	壹万八千石	壹万六千六拾石余	壹万二千四百八拾石余 内千三百五十石余与力給
摂津内	志摩 常陸 三河 伊勢	遠江内	下野内	常州内	甲州内	上総内	大和内
本国三河 生国武蔵	本国三河 生国武蔵	本国武蔵 生国 (マ)	本国三河 生国武蔵	本国下野 生国同	本国武蔵 生国同	本国三河 生国武蔵	本国近江 生国摂津
居城高槻	居城戸羽	居城浜松	居城壬生	居城下館	居所郡内	居城根古屋	居所小泉
永井市正	内藤飛弾守	太田摂津守	三浦志摩守	増山兵部少輔	秋元摂津守	阿部伊予守	片桐石見守
尚時 二十七	忠重 五十二	資次 四十二	安次 卅六	利順 十六	喬朝 二十	重長 三十二	貞昌 六十四

壹万貳千石

下野内

本国下野  
生国同

居所福原

那須遠江守

次国  
四十三

壹万石

下野内  
下総内

本国三河  
生国武蔵

居所足利

土井信濃守

利尚  
三十二

壹万石

下野  
常陸内  
下総

本国三河  
生国武蔵

居所下妻

土井周防守

利益  
二十一

壹万三千石

武州  
相州内  
遠州

本国遠江  
生国駿河

加々爪甲斐守

直澄  
五十九

五千石

常陸内

本国三河  
生国武蔵

内藤出雲守

忠田  
四十八

三千俵

本国尾張  
生国武蔵

松平阿波守弟

蜂須賀飛驒守

至照  
三十五

壹万五千石

武蔵  
三河内  
下野  
摂津

本国駿河  
生国武蔵

与力三十騎

安部丹波守

信之  
六十五

壹万五千石

与力三十騎  
同心百人

米津出羽守

田盛  
五十四

五千石

駿河内

本国三河  
生国近江

駿河御城代  
与力十騎  
同心廿人

松平左近大夫

乘真  
五十九

是ヨリ款冬間之衆

貳万石

伊勢内

本国三河  
生国武蔵

居所神戸

石川若狭守

総良  
廿七

貳万千石余

上総内

本国甲斐  
生国武蔵

居所久留里

土屋民部少輔

利直  
六十一

壹万三千五百廿石余

武蔵  
河内内  
和泉

本国三河  
生国

渡辺越中守

正綱  
二十九

壹万五千石

摂津  
近江  
安房内  
上総  
下総

本国信濃  
生国同

保科越前守

正景  
五十三

壹万三千百四拾四石余

内千五百石別

丹後内

本国近江  
生国同

居所嶺山

京極主膳正

高供  
四十六

壹万拾七石余

江州  
常州内

本国尾張  
生国武蔵

居所水口

山口修理亮

弘隆  
七十

壹万石

相模内  
下総

本国尾張  
生国武蔵

居所生実

森川出羽守

重信  
三十三

壹万四千八百八拾五石余

上総内  
下総

本国三河  
生国武蔵

井上筑後守

政清  
四十一

壹万四千四百六拾石余

近江内  
和泉

本国近江  
本国山城

居所小室

小堀備中守

政之  
五十

壹万五千石

下総内  
下野

本国三河  
生国武蔵

居所鹿沼

内田出羽守

正衆

壹万石

甲斐内  
上総

本国撰津  
生国武蔵

居所川浦

伊丹大隅守

勝政  
四十四

壹万貳千石

常陸内  
安房内  
上野  
近江

本国三河  
生国武蔵

居所玉取

伊丹大隅守

勝政  
四十四

壹万石

安房内

本国武蔵  
生国同

居所北条

屋代越中守

忠至  
廿二

壹万石

越後内  
上総  
武蔵  
下総

本国近江  
生国  
マモ

居所マモ

堀飛弾守

直良  
廿六

壹万石  
修理大夫高之内

壹万三百石

壹万俵

壹万石

備後守嫡子

酒井越前守

忠栄  
十八

柳生飛驒守

宗冬  
五十六

堀田豊前守

正職  
十四

居所丹南

高木勘解由

左京大夫嫡子

丹羽若狭守

長政  
二十五

但馬守嫡子

松平若狭守

富明  
十三

肥後守二男

細川若狭守

利重  
廿三

相模守二男

松平壹岐守

仲時  
十九

安芸守二男

松平式部少輔

長義  
十四

七万三千式百五拾石  
四物成ニ内証ニテ遣

五万式千六百石  
四物成ニ内証ニテ遣

式万石  
四物成ニ内証ニテ遣

三万石  
内証ニテ遣

本国山城  
生国肥後

五千俵

三千石

大和内

紀伊守子

鍋嶋加賀守

直能  
四十六

甲斐守子

鍋嶋撰津守

直之  
廿五

和泉守子

鍋嶋備前守

直隆  
子二十九

居所宇土

細川丹後守

行孝  
三十二

森内記弟

関備前守

長政  
五十七

丹後守弟

京極信濃守

高勝  
四十八

出雲守二男

織田対馬守

高貞  
三十二

内記二男

森伯耆守

長義  
廿五

修理大夫二男

佐竹左近将監

義知  
十四



修理亮嫡子

小出備前守

吉之  
廿九

左衛門佐嫡子

有馬周防守

永純  
廿五

能登守嫡子

稻葉右京亮

景通  
三十

出羽守嫡孫

加藤遠江守

泰經

中務少輔嫡子

脇坂市正

安村  
十五

能登守嫡子

亀井伊予守

政直  
廿三

美作守嫡子

松平玄蕃頭

定時  
三十八

周防守嫡子

松平主計頭

康長

遠江守嫡子

松平筑後守

忠保  
十七

飛騨守嫡子

内藤和泉守

忠勝

市正嫡子

松平志摩守

直之

廿三

摂津守嫡子

太田備後守

資直

伊賀守嫡子

真田弾正忠

信就

十四

丹波守嫡子

堀左京亮

直利

子二十五

佐渡守嫡子

秋月出羽守

種恒

十四

隠岐守嫡子

田村右京大夫

宗永

十三

内膳正嫡子

岡部備後守

宣就

十七

左近将監嫡子

松平対馬守

昭重

三十一

居所美作守嫡子

堀周防守

親貞  
廿九

伊賀守嫡子

戸田日向守

忠真  
十八

山城守嫡子

土岐左京亮

頼長  
廿七

伊賀守嫡子

六郷佐渡守

政信  
卅四

佐渡守嫡子

松平長門守

良富  
十七

河内守嫡子

松平主計頭

定治  
四十八

内膳正嫡子

板倉伯耆守

重良  
廿七

信濃守嫡子

小笠原上野介

長知  
三十二

伊賀守嫡子

松平凶書助

忠栄  
廿八

長病

八千石	六千石	七千石	五千石
本国三河 生国武蔵	本国三河 生国同	本国三河 生国武蔵	本国三河 生国武蔵
御数寄屋方 国目付	御腰物方 国目付 舞々猿楽	国目付 舞々猿楽	
支配	支配	支配	
板倉筑後守	松平民部少輔	松平因幡守	石川美作守
重直 四十九	氏信 五十六	秀綱 三十九	乗政 三十二
			修理大夫嫡子 酒井鞆負佐 忠隆 十八
			播磨守嫡子 阿部美作守 正武 廿二
			右近大夫嫡子 永井土佐守 尚長
			佐渡守弟養子 牧野因幡守 富成 四十一

監物嫡子

水野右衛門大夫

忠春

廿八

相模守嫡子

井上出雲守

正幸

因幡守嫡子

青山和泉守

忠親

十八

大膳亮嫡子

青山大藏少輔

幸実

卅一

山城守嫡子

小笠原能登守

長治

廿五

志摩守嫡子

三浦耆岐守

直次

甲斐守猶子

加々爪土佐守

直清

廿五

飛騨守嫡子

長煩

内藤志摩守

忠重

廿三

修理大夫二男

酒井右京亮

忠登

子二廿一

役料貳千俵充

六千石

本国三河 与力十騎  
生国相模 同心五十人  
御留守居

大久保右京亮

教勝  
五十六

三千石

本国美濃 与力十騎  
生国下総 同心五十人  
御留守居

滝川長門守

利貞  
六十

四千石

本国三河 与力十一騎  
生国山城 同心五十人  
御留守居

板倉市正

重太  
五十一

六千四百石

本国三河 与力十三騎  
生国武蔵 同心五十人  
御留守居

戸田備後守

重種  
五十四

役料貳千俵充

四千石

本国三河 与力十騎  
生国近江 同心二十人  
大番頭

戸田相模守

氏吉  
五十六

五千石

本国三河 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人  
大番頭

酒井伊予守

忠興  
四十九

三千七百拾八石

本国甲斐 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人  
大番頭

武田越前守

信貞  
三十八

八千石

本国三河  
生国  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

本多伯耆守

正直

五千石

本国三河  
生国相模  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

三枝撰津守

守俊  
三十七

壹万石

本国  
生国  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

板倉伊予守

重形  
四十六

九千石余

本国三河  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

植村土佐守

忠将

四千石

本国三河  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

松平縫殿頭

乗次  
三十六

五千石

本国三河  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

内藤若狭守

重頼  
四十一

四千石

本国駿河  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

岡部丹波守

与堅  
六十四

貳千石

本国甲斐  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

土屋兵部少輔

元直  
五十八

五千石

本国三河  
生国武蔵  
与力十騎  
同心廿人

大番頭

田中大隅守

定房  
三十

役料千俵充

三千石

本国三河 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人

一番  
書院番頭

青山丹後守

幸通  
四十九

八千石

内五百石充小左衛門・半十郎二別ル

本国三河 与力十騎  
生国同 同心廿人

書院番頭

松平豊前守

勝易

七千石

本国 (ママ) 与力十騎  
生国 (ママ) 同心廿人

書院番頭

永井佐渡守

尚喜  
子二十四

四千五百石

本国 (ママ) 与力十騎  
生国 (ママ) 同心廿人

書院番頭

安藤壱岐守

重良

七千俵

本国甲斐 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人

書院番頭

三枝隠岐守

守全  
五十九

四千三百石

本国 与力十騎  
生国 同心廿人

書院番頭

永井対馬守

直孟

四千石

本国三河 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人

書院番頭

酒井下総守

忠景  
四十

五千石

本国美濃 与力十騎  
生国肥後 同心廿人

書院番頭

町野壱岐守

幸宣  
五十

五千石

本国尾張 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人

堀田对馬守

将英  
三十三

貳千五百石

本国三河 与力十騎  
生国武蔵 同心廿人

大久保山城守

忠高  
五十

役料千俵充

三千石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)

御小性組番頭

新庄長門守

直長

五千石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)

御小性組番頭

内藤上野介

正勝

貳千俵

本国三河  
生国武蔵

御小性組番頭

酒井壹岐守

忠辰

貳千石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)

御小性組番頭

青山信濃守

幸重  
四十八

千七百石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)

御小性組番頭

荒川出羽守

定昭  
三十二

貳千五百石

本国三河  
生国武蔵

御小性組番頭

柴田和泉守

康利

千五百俵

本国  
生国 (マ)

御小性組番頭

土岐伊予守

頼隆  
廿六

三千式百石

本国  
生国 (マ)

御小性組番頭

伊沢主水正

政成

五千石

本国三河  
生国同

御小性組番頭

本多土佐守

忠隆  
四十五

式千五百石

本国丹後  
生国武蔵

御小性組番頭

大草主膳正

高盛  
四十六

出羽守嫡子

米津伊勢守

政盛  
二十九

丹波守嫡子

安部摂津守

信也

民部少輔嫡子

松平勘解由

氏綱  
廿五

長煩

民部少輔嫡子

松平備後守

氏次  
十六

長門守嫡子

滝川信濃守

利雄

## 千俵

大隅守嫡子

田中主殿頭

定賢

兵部少輔嫡子

土屋備前守

徳直

左近大夫嫡子

松平内匠頭

乗綱

備後守嫡子

戸田和泉守

重恒

丹波守嫡子

岡部隱岐守

宣政

日向守嫡子

中根大隅守

正則

周防守嫡子

水野肥前守

忠明

伯耆守嫡子

本多豊前守

正永

相模守嫡子

戸田石見守

氏胤

五百俵

千俵

千俵

千俵

千俵

千俵

摂津守嫡子

三枝土佐守

守治

十九

越前守嫡子

武田山城守

信将

十九

縫殿頭養子

松平石見守

乗盛

太田伯耆守

資高

廿六

能勢摂津守

頼相

神尾播磨守

元知

稻垣市正

重次

岡部志摩守

直好

渡辺右京亮

直綱

廿四

五百俵

五百俵

五百俵

五百俵

六百俵

役是ヨリ中奥

五千石

五千石

五千石

堀山城守

直行  
廿七

滝川相模守

利久

小笠原佐渡守

長好  
十九

米津周防守

盛信  
二十三

小出若狭守

有利  
丑廿五

秋田淡路守

季久  
卅

松平伊勢守

直綱  
三十九

三浦越中守

共次  
廿九

本國出羽  
生國武蔵

本國三河  
生國武蔵

本國武蔵  
生國同

六百俵	千俵	貳千俵	貳千石	貳千石	貳千石	貳千石	三千石	三千石
小堀下総守	毛利備後守	稲葉出羽守	三好石見守	大沢右近大夫	井上兵庫頭	岡部阿波守	小笠原丹後守	石川市正
正貞	元矩	正喬	政盛	基好	利朗	豊明	長定	正綱

五百俵

松平大学頭

昭利

五百俵

東條因幡守

義叙

五百俵

能勢山城守

頼綱

六千石

本国美濃 与力十騎  
生国武蔵 同心卅人  
伏見町奉行

仙石因幡守

久俊  
五十三

四千石

御役料千五百俵

与力二十騎  
同心五十人  
京都町奉行

能勢日向守

頼宗  
五十三

三千貳百石

御役料千五百俵

与力二十騎  
同心五十人  
京都町奉行

前田安芸守

直勝  
三十八

千六百石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)  
与力五騎  
同心卅人  
禁中方

服部備後守

貞常  
五十八

貳千五百石

与力五騎  
同心卅人  
禁中方

石谷五右衛門

千五百石

本国 (ママ)  
生国 (ママ)  
与力五騎  
同心卅五人  
女院様方

築田隠岐守

直次

千四百石

与力五騎  
同心卅五人  
女院様方

久保和泉守

勝周

千五百石

与力二騎  
同心十五人  
本院御方

岡部土佐守

久綱  
四十八

九百石

与力二騎  
同心十五人  
本院御方

松下豊前守

房利  
六十一

九百石

本国  
生国  
与力二騎  
同心十五人  
新院御方

小笠原丹波守

信吉

千石

与力二騎  
同心十五人  
新院御方

山口庄兵衛

貳千貳百四拾石

本国伊勢  
生国武蔵  
与力卅騎  
同心五十人  
大坂町奉行

石丸石見守

定次  
六十

貳千貳百石

本国二河  
生国武蔵  
与力卅騎  
同心五十人  
大坂町奉行

彦坂壹岐守

重継  
五十

千七百石

本国  
生国  
与力十騎  
同心五十人  
堺奉行

水野伊予守

元重

外二御役料千石

貳千五百石

与力六騎  
同心卅人  
奈良町奉行

溝口豊前守

信勝  
四十七

貳千石  
外御役料二千石

千八百石

本国三河 与力六騎  
生国駿河 同心卅人  
久能御役人

山田町奉行

桑山丹後守

貞政

千俵

本国三河  
生国伊勢

日光山役人

梶左兵衛佐

定良  
五十九

六千石

本国尾張  
生国 (ママ)

火消役

池田帶刀

長政

三千石  
外御役料五百俵

本国三河  
生国摂津

御使役

渡辺筑後守

正  
五十三

千八百石  
同断

御使役

神尾若狭守

元珍

貳千石  
同断

御使役

三好備前守

勝任

役是ヨリ寄合

八千石

本国三河  
生国武蔵

本多対馬守

忠将



四千石

本国三河  
生国武蔵

久永飛驒守

重章  
四十三

三千貳百石

本国三河  
生国武蔵

永井式部少輔

直重  
六十三

三千石

本国播磨  
生国同

有馬出雲守

豊長  
六十九

五千石

權平養子

平野丹波守

長政

三千石

本国三河  
生国山城

永井甲斐守

尚冬  
二十四

三千石

本国三河  
生国近江

菅沼越中守

定恒  
三十七

三千五百石

佐藤駿河守

吉次  
六十八

貳千石

本国  
生国  
(ママ)

松平兵庫頭

直則

三千五百石

本国三河  
生国武蔵

松平紀伊守

季綱  
四十

八百俵

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

本多将監

景次  
六十四

千俵

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

安部伊勢守

信友

千石

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

朝倉織部正

豊明

千石

鈴木淡路守

重秀

千百五拾石

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

内藤筑後守

重種

貳千俵

生国 下総

松平外記

忠宣  
六十五

千五百石

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

酒井因幡守

忠知

千五百石

生国 (ママ)  
本国 (ママ)

牧野長門守

種誠

貳千七百俵

村越伊予守

正成

七百石

本國 (ママ)  
生國 (ママ)

酒井大膳亮 勝吉

隱居

本多美作 忠相  
七十

隱居

戸田淡路 氏経  
六十六

隱居

中坊美作入道宗雲 晴祐  
七十九

隱居

畠山下総入道一安 義真

隱居

村越長門入道 道半  
六十

隱居

黒川丹波入道独広 正直

松平隼人正 忠久  
六十

信齋子

長病

永井大和守 尚保  
五十

本國 (ママ)  
生國 (ママ)

五百俵	五百石	五百石	五百石 外式百俵	五百石	千式百石	千五百石	千百廿石
							弘文院学士
							治部卿
					延寿院		法印
法印	法印	法印	法印	法印			
							林春齋
							被免素絹
							通仙院
							被免素絹
							今大路前典薬頭
							道三
							驢庵子
							半井前典薬頭
							達時
							隱居
							永原施薬院
							三雲
							吉田意安
							宗格
							吉田盛芳院
							隱居
							竹田刑部卿
							内田玄勝

五百石

久昌院

法印

奈須玄竹

三百俵

民部卿

法印

上池院

五百俵

法印

野間三竹

七百石

大藏卿

法印

人見元徳

端祥

六百石

宮内卿

法印

安部長徳院

宗育

又玄院

五百石

治部卿

法印

塙宗悦

道怡

四百俵

民部卿

法印

河野良意

千石

啓迪院

法眼

岡本玄琳

三百俵

法眼

岡甫庵

隱居

百石	貳百石廿人扶持	三百俵	三百俵	貳百俵十人扶持	三百俵	三百俵	三百俵	三百俵
法眼	法印	法眼	法眼	法眼	法眼	法眼	法眼	法眼
狩野永真	狩野探幽	人見友元	林春常	渋江長怡	吉田策庵	吉田長庵	井上玄徹	佐田玉川

尾張殿家司

三万石

居城犬山

成瀬隼人正

正親

三万石

屋敷構計

竹腰山城守

政晴

壹万石

寺尾土佐守

直竜

五千石

山澄淡路守

英竜

五千石

成瀬豊前守

正景

紀伊殿家司

三万五千石

居所新宮

水野対馬守

重直

三万五千石

居所田辺

安藤帯刀

直清

壹万五千石

三浦長門守

為時

八千五百石

久能丹波守

宗俊

八千石

渡辺若狭守

令綱

三十八

水戸殿家司

壹万貳千石

屋敷構計

中山備前守

信治

外三三石与力給

屋敷構計

山野部土佐守

義政

壹万石

五千石

鈴木石見守

重政

五千石

中山市正

信行

五千石

松平志摩守

重孝

廿四

三千石

左馬頭殿家司

六千石

諏訪備前守

頼高

六千石

新見備中守

正信

三千石

戸田播磨守

吉輝

三千石

岡野美作守

成恒

三千石

城代

戸田周防守

忠高

貳千石

藤枝丹波守

重頼

右馬頭殿家司

隱居

中山市正入道風軒

信正

六千石

五千石

三千石

三千石

三千石

三千石

室賀下総守

正俊

曾我伊予守

包助

大久保和泉守

正朝

杉浦大隅守

正幸

牧野備後守

成貞

城代

金田遠江守

正勝

右馬頭殿家司

黄門

二人

宰相

三人  
内正三位二人

中将

四人  
内三位二人

少將 十七人 從四位上一人

侍從 四十四人 從四位上一人  
從五位下五人

四品 二十人

諸大夫 四百四拾七人 十二人無官  
二十八人家中諸大夫

御扶持人 法印十七人  
法眼十人

役料千俵充

貳千八百石

本国三河  
生国相模

大目付  
東海道奉行

高木伊勢守

守政 七十

千九百三拾石

本国三河  
生国遠江

大目付

大岡佐渡守

忠勝 六十

貳千七百石

大目付  
吉利支丹改

渡辺大隅守

綱貞 五十七

貳千五百石

与力廿五騎  
同心百人  
町奉行

嶋田出雲守

守政

貳千五百石

与力廿五騎  
町奉行  
同心百人

宮崎若狭守

重成

役料七百俵充

千八百石

本国近江  
生国同

与力六騎 御作事奉行  
同心卅人 吉利支丹改

青木遠江守

義継  
五十八

五千石

本国駿河  
生国武蔵

御守衆 大森信濃守

頼直  
六十二

是ヨリ御小性衆

三千石

朽木和泉守

則綱

千俵

三枝対馬守

守清